

ホーム名：ジョイフルしらさぎ 1階 さくら					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、第4月曜日に全体会議を第3月曜日に1階のフロア会議、第3水曜日には2階のフロア会議を行い話し合いの場を設けている。「ゆっくり・一緒に楽しい暮らし」開設以来の理念を大切に！！	「ゆっくり・一緒に楽しい暮らし」を理念として掲げている。日常での事例を会議で取り上げながら、常に理念を頭に置いた支援を職員と共に考えながら実践に繋げている。	理念が外来者にもよくわかる様に、大きく目立つ提示を考えられたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、近くのスーパーまで出かけ、地域交流を図っている。公園の散歩もかかさず行っている。美容室にも近隣美容室を使わせて頂いている。	自治会に加入しているが、開設時より事情があり地域の行事には参加出来ていない。地域のボランティアビューローを利用し、ホームでの行事を行っている。地域での散歩・美容院やスーパーの利用等地元との付き合いを大切にしている。	自治会との関係に苦慮している様子が窺えた。地域ボランティアの方々の理解を得ると共に、協力者を徐々に増やしながら地道に努力を重ねていって頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等でボランティアを募り、認知症に対する理解を深めている。現在では2.3カ月に1度ぐらい活用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、行事の中に会議を設け、地域・家族・利用者・職員との交流の場を設けている。比較的にリラックスした状態で意見や評価をもらう事もある。	2ヶ月に1度、入居者・家族・地域包括支援センター職員の参加を得、ホーム2階フロアで開催されている。現状報告・活動報告・今後の予定を主な議題とし、当日は音楽会等を催し交流の場も兼ねて開催されている。	地域の方々（自治会・老人会・婦人会・民生委員等）や区職員の出席が今後の課題と言える。議事録に出席者の発言内容を載せるなど、記録としての充実を図られたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	まだまだ密とは行かないが、運営推進会議や研修など話し合う機会が多くなっている。	自治会との関係構築について市に相談した経緯がある。区や市職員へ運営推進会議への出席要望は出していない。相談事等区・市、どの課に相談すればよいかわからない時がある。	わからない点は“とにかく区に聞いてみる”という行動で、疑問を残さない取り組みを図っていかれたい。事業所は介護保険の現場」と言う認識で、ホームの現状を知って頂く為にも区の担当者には運営推進会議への出席を呼びかけられたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本行っていないが、玄関の施錠はなかなか解除する事が出来ない。入居時に説明を行い理解を頂いている。施錠の開放を望まれるご家族様・関係者はいらっしゃらない。	外部研修等に参加し、学んだ事は内部研修で伝え全員が共有している。施錠の弊害については職員も理解出来ている。今後は時間をかけて玄関の開放に向けて取り組んでいきたいと、目標を掲げている。	入居者との“スタッフ担当制”も取り入れている。それらも参考に職員とよく相談をされ、開錠に向けての取り組みに繋がられたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にも行って頂き、外部研修を受けた者が内部研修を開催し、会議の場でも話し合っている。内部研修を受けた者にも報告書を記入して頂いている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>行政の行う研修にも参加し学ぶ機会を設けている。必要に応じた対応を心掛けている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時には十分な時間を取りご入居者様の今後について話し合いを行っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見要望を受け入れ事業所としての対応に心がけている。</p>	<p>玄関に意見箱が設置されているが、今までに投書は無い。家族の来訪時に声かけをし、意見や要望を伺うよう努めている。家族の運営推進会議への出席は少ない。</p>	<p>職員は家族からの信頼も厚く、良好な関係が維持されている。家族へ運営推進会議への出席も呼びかけて、様々な場からの声も汲み上げてみられたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>意見要望を受け入れ事業所としての対応に心がけている。</p>	<p>会議では職員の発言も活発である。・テーブルの配置換えをする事で転倒が減った ・ユニット毎の会議を開く ・入居者に対して職員を担当制にする(半年交代) ・医師に合わせたケース記録表にする等は職員の提案からである。</p>	<p>勤務年数が長い職員が多く、チームワークもとれている。日々の支援に満足する事無く、今後も提案や意見を出し合いホームの充実に力を注がりたい。外部評価結果を会議で取り上げるなど、有効に活用して頂きたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者が直接スタッフ1人1人と話し合う機会を設けて頂ける事がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>協力的である。研修にかかる費用は全額会社負担して頂けている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>東住吉区ではグループホーム連絡会や見学会、ケアマネ連絡会などのネットワーク作りに協力的である。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>努力している。意思を伝えられない入居者については家族・関係者との連携を取り意向を確認する。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>努力している。家族・関係者との連携を取り意向を確認する。要望通りプランを立てるよう努力している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>申し込み時にも他の施設紹介なども行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>なじみの関係が作れている。実際職員は自分の家族よりも長い時間を過ごす入居者の生活をよく考えている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来所時には普段の様子を伝えたり、一緒に散歩に出かけたりする。来所頂けない家族へは瓦版等により様子等を報告している。ジョイフル通信は毎月、全家族様に郵送している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居時にはなじみの家具等を持って来て頂けるよう支援している。ご近所の友人等も来所して頂ける事がある。</p>	<p>美容院の利用（6人程）や図書館の利用、また家族と一緒に寿司を食べに行くなど、入居者の要望に応じて継続した利用や外出などがなされている。</p>	<p>リビングには古いミシンやアルバムなど、昔を思い出す懐かしい物がそれとなく置かれている。今後も馴染みの物や人・場との関係継続の支援を引き続きお願いする。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>フロアではよく、利用者同士の会話を見かける。孤立されている様子は見受けない。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>相談援助はいつでも行っている。また面会にも行く事がある。</p>		

### III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話し合いは怠らないように心がけている。日常生活から思いをくみ取れるように心がけている。	入居者の気持ちや心を大切にしながら、優しい声かけで思いや意向の把握に努めている。	担当制の導入で、より入居者の事がよくわかるようになり、気づく面もあるとの事。情報は職員で共有しながら、支援に活かして頂きたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時に家族・関係者から○○さんシート（独自シート）の記入にご協力頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	往診医師・看護師等にも密に連絡し状況把握に努めている。個人ケース記録の見返しも行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットごとのスタッフ配置により、本人を理解する事が比較的早くなり、なじみの関係にてご家族様の要望にも対応出来ている。必要に応じて個別会議を行い対応に応じている。	本人の出来る事が継続して出来る`という事を目標に、望みの生活・好みの生活を送れるように考えながら介護計画作成にあたっている。かかりつけ医・看護師・職員・家族の意見や要望等も取り入れ、3ヶ月に1度見直ししている。目標設定は短期3ヶ月・長期6ヶ月としている。	短期目標・長期目標は個人個人に副った目標で、毎日の張り合いや生き甲斐となる様な身近なものが良いと考える。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設独自のシートにてご本人の生活把握に努めている。水分・排泄パターンを知り、生活状況の把握も比較的スムーズに出来ている。職員間の申し送りも毎日行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の要望にもこたえるように努力し、美容室などへの外出支援なども行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園やスーパーなどには毎日出掛け、時にはお寺や神社までかけている。時には図書館へ本を借りる、返す支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院の医師、自ら週に1度訪問して頂き、顔なじみのナースによる訪問看護も受けている。さまざまな研修にて職員も入居者も安心している。入居時に家族の理解を得ている。	週に一度提携病院の往診と歯科の訪問診療があり、週に2回看護師の訪問看護を受けている。提携医以外の医院の希望があれば対応する。眼科と耳鼻咽喉科への送迎も事業所で支援している。	きめ細かい医療支援で家族の安心にも繋がっている。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週2回の訪問看護があり、行っている。時には連絡した際にとんで来て頂ける。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>適切に行っている。又、入院されている間は、様子を病院関係者と情報交換するとともに、実際に面会し状況確認にも努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>指針を定め、入居者の家族、病院とも話し合い看取りをして行く方針になった。まだ実際、看取った事はないがこれから看取って行くと思われる。</p>	<p>医療機関からの依頼で本年度から事業所として看取り支援をしていく事になった。「ターミナルケア」について管理者やケアマネージャー、他職員が外部研修に行き少しずつ体制を整えるべく職員を指導し話し合いを重ねている。</p>	<p>ほとんどの入居者が事業所で最期を迎えたいと考えておられるということである。これから更に安心感を深めていかれると推察する。本人、家族の思いは、徐々に変わっていくことも考えられるのでその都度、医師、職員も交えて話し合いを重ね支援されたい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命講習にも施設で行って頂き近隣住民にも参加して頂いた。後、看護師による相談も行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設近隣に職員5名の自宅がありまた、消防訓練も近隣住民の方の参加もして頂いている。</p>	<p>年に2回、その内1回は消防立会の下避難訓練を行っている。今年の6月には夜間を想定した訓練を行っている。緊急時対応ファイルを完備し、消防から設備上の安全確認も受けている。</p>	<p>入居者がさらに高齢化、重度化されていくことや、2階からの避難、地震が起きた時の誘導などの想定は繰り返し話し合われ、いざという時に備えるよう今後も訓練を続けられたい。またご近所との助け合いについても更に深めていかれるよう期待する。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>会議等でプライバシーの重要性についてはよく話をし損ねない言葉かけ等を心掛けている。</p>	<p>今年から担当制を取り入れて入居者を更に詳しく知って、日々変わっていく課題や変化に応じてきめ細かな対応が出来るよう、又その情報を職員で共有することも含めて努力している。</p>	<p>入居者、職員はひとつの家族のようにそれぞれの個性を知り、尊重し合っている。管理者がリーダーシップを発揮しゆつたりと、その人に合った支援をするよう努力しているのは素晴らしい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>誕生日などその方の嗜好を聞き昼食等に取り入れている。日々自己決定が出来る言葉かけに気を付けている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々のプログラムをある程度決めているが、個々の希望に添えるよう努力している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>個別の化粧品の購入などの支援も行っている。希望があれば職員が化粧する事もある。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来ることの支援として、盛り付けやお片付けをお手伝いして頂いている。</p>	<p>食材は業者から届き調理して出す。食器にも気を配り、茶碗、味噌汁椀とお箸はそれぞれ家からの持ち込みのものを使用している。朝食はパンかご飯を選ぶ事が出来る。</p>	<p>皆さん美味しそうに食べられていた。食事は一番の楽しみである。それぞれのペースで楽しんで食べられるようにとろみ付け等も取り入れ、愛情こもった料理を継続されたい。その日の感想を業者に伝える(記録にも残す)事も提案したい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>毎日、食材のみの配達され不足を毎日スーパーへ買い物に出かけ調達するようにし、看護職員や栄養士からのアドバイスを受けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の声かけや介助をしっかり行っている。歯科医より口腔ケアについての講習会も受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンを把握し個々に応じた排泄の支援を行っている。実際、リハビリパンツからショーツへの対応が出来ている利用者もいる。</p>	<p>個人ファイルや日常生活日誌において排泄パターンを把握している。失敗にこだわることなく出来るだけ昼間は布の下着を使用したり様子を見て呼びかけるなどして支援している。</p>	<p>これからも気持ちの良い排泄ができて日々過ごせるように、また自尊心を大切に声かけで支援を続けられたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事量、水分摂取量を把握し専門職員からアドバイスにより予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ある程度の時間は決めているが希望に応じるように勤めている。</p>	<p>最低週に2回は入浴してもらいできない日は足浴でさっぱりしてもらおう。来年には機械浴の導入を計画している。</p>	<p>今年度から看取りの支援もされていくので、重度化の対応の面でも、また職員の介助負担の軽減の為に機械浴の導入計画は本当に良かった。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>広い共用空間を用しており間仕切りや各所に椅子等を設置している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人ケースに薬情報を貼り専門員からのアドバイスも受けている。服薬支援も行っている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>毎日、天候や体調に問題がない限り、散歩に出かけ気分転換の支援を行っている。嗜好に合わせ色塗り・編み物読書などにも対応出来ている。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>急に買い物に行きたいとおっしゃった利用者等にも対応出来ている。毎年、6月、11月には日帰りで外出している。その事について家族様も喜んで頂いている。</p>	<p>事業所の近くに緑がたっぷりの白鷺公園があり、車通りもあまり激しくないで日常的に外気を感じやすい環境であり、季節行事や施設行事、年間行事を工夫することで家族にも喜ばれている。</p>	<p>遠くに行かなくても外に出て季節を楽しめるような支援をこれからも願っています。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個々に応じた対応を家族と話し対応している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>行っている。フロアの電話を利用されたり、個々に携帯電話を所持されている方もいらっしゃる。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員の手作りの暖簾をつるし、季節に合わせて、季節折々の絵など作品も飾っている。居心地の良い空間作りを心掛けている。</p>	<p>とても広い居間、食堂には職員の手製の暖簾など手芸品や絵画や入居者と一緒で作った作品が飾られ温かい雰囲気になっている。食事の場とつくるごの場を分けるような家具の配置にしたりオルガンを置いたり楽しい日常を創り出す工夫をしている。</p>	<p>ゆったりした空間があるので午後の時間に体操をして気分を換えたりビーチボールを使った遊びやぬりえや唱歌を楽しんだりしている。廊下をリハビリにも使用できるし今後も有効に利用されるよう期待する。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>行っている。1人になりたい時は自らお部屋へ入室される。プライバシーをしっかりと守られている。</p>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居契約時にお願出来るだけなじみの物を持って来て頂いている。仏壇の持ちこみも可能である。</p>	<p>どの部屋にも畳の場が有りゆったりとした間取りになっている。掃除は早出の職員が毎日行うが自分で出来る人にはその体調など様子を見ながら手伝ってもらう。</p>	<p>これからも出来るだけ居心地よく過ごされるように家具、持ち物の持ち込みなど入居者の個性を大切に支援を続けられたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個別に出来るようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない